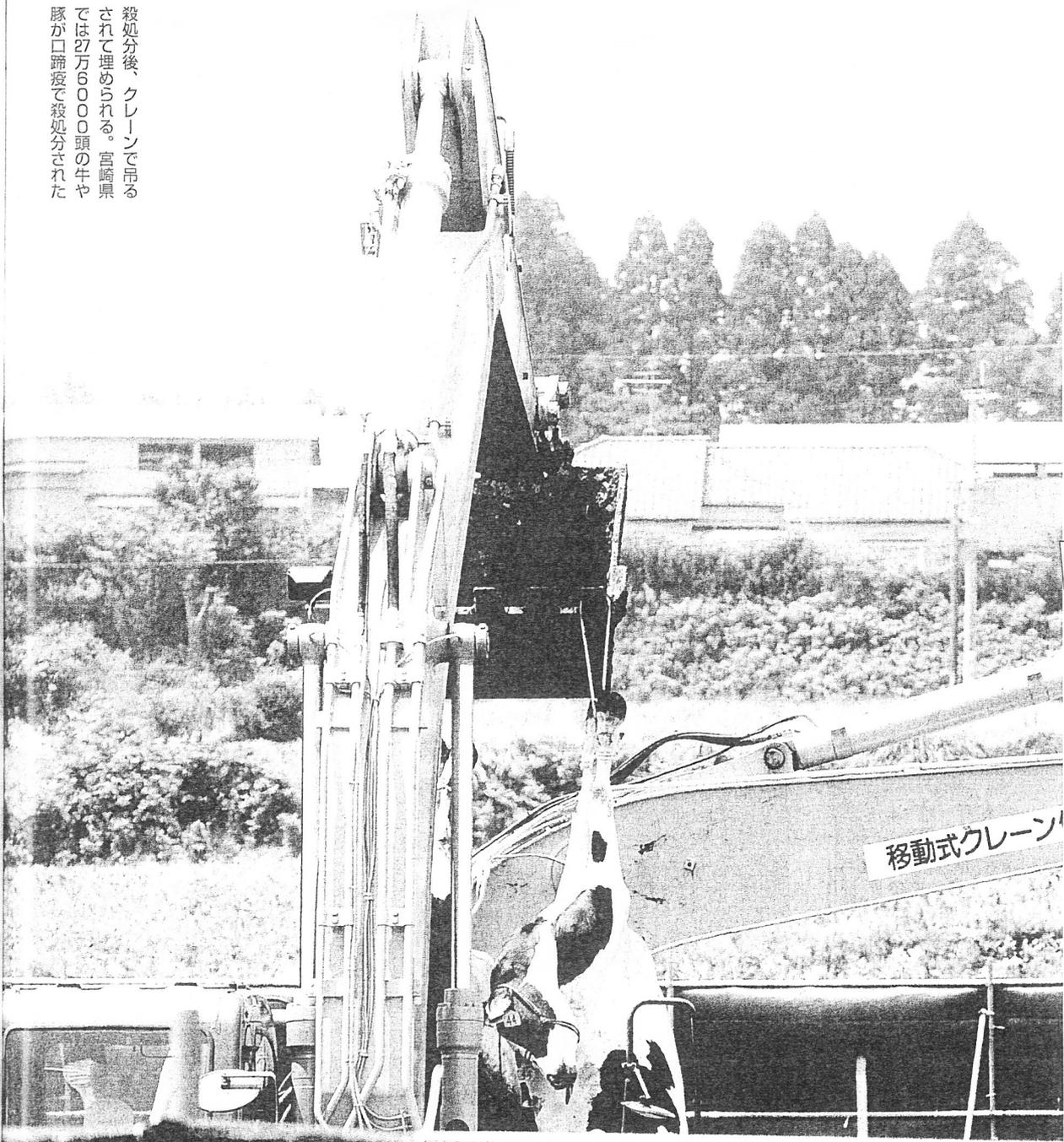


徹底追及！口蹄疫大量の感染牛がそのまま飼育されていた

「疑惑の牧場」社員が告発「感染拡大した本当の理由」

現役

取材・文 横田一
(ジャーナリスト)



殺処分後、クレーンで吊るされて埋められる。宮崎県では27万6000頭の牛や豚が口蹄疫で殺処分された

「私が働く『X牧場』が最初の感染源と断定はできませんが、少なくとも感染の隠蔽をして口蹄疫拡大の一因になったのは間違いありません」

こう話すのは、宮崎県などで大規模牧場を経営する『X牧場』(川南町)の現役社員A氏だ。

宮崎県で口蹄疫の感染第1例目が出たのは、4月20日である。県の発表によると、このX牧場は数例目の感染となっており、複数の地元住民が「最初の感染源」と疑惑を持つ牧場なのである。

この牧場は4月26日に感染牛を殺処分したが、作業に携わった殺処分班のメンバーも「殺処分の」約1カ月前にはすでに感染していた可能性がある」と指摘していた(本誌7月22日号で紹介)。このメンバーによると、殺処分時の現場は全頭感染に近いような状況で、立ち会った獣医は殺処分した牛の舌を引っ張り出して、「舌の色から見ると口蹄疫の潰瘍が治りかけている。これは遅くとも3週間以上前、場合によっては1カ月前の5週間から6週間前に感染していたのだらう」と話したという。

そして今回、X牧場の現役社員が本誌に証言を寄せたのだ。A氏によれば、殺処分前に感染牛を見たX牧場契約の獣医がいて、彼は現在、X牧場の施設について外部との接触が禁じられているという。A氏はこの契約獣医が感染牛をどう判断したのかを改めて聞き、その会話を録音して、本誌に内部告発した。